



No. 40

10/25. 2004

Moriya International Friendship Association

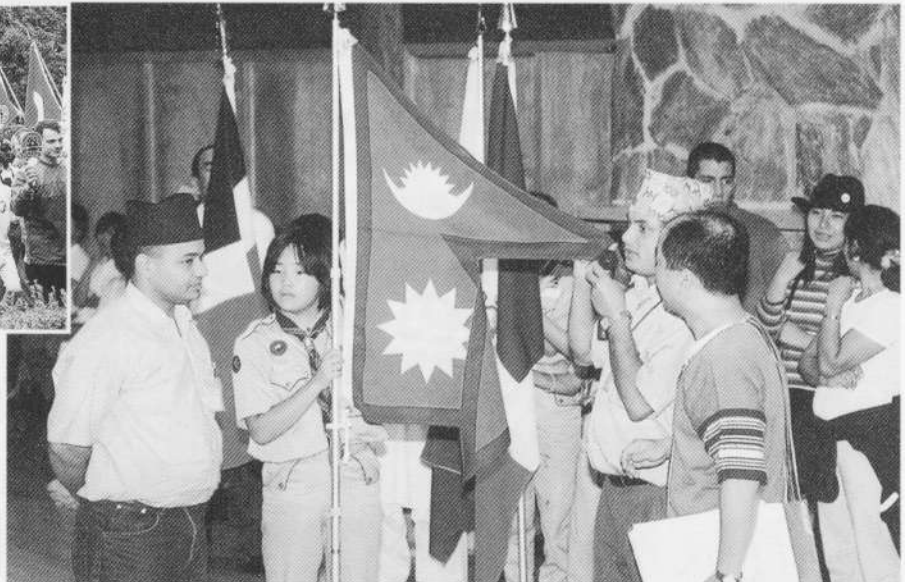
MIFA NEWS

守谷市国際交流協会広報委員会発行

事務局 住所：守谷市大柏950-1

電話：0297-45-1111

URL: <http://www.fureai.or.jp/mifa>



9月26日、MIFAフェスタ2004 われら地球人



#### 2004年4月～9月の主な事業

- 4. 5 MIFAニュースレターNO.38発行
- 4. 9 英会話初級・中級コース開講
- 4.12 ドイツ語講座開講
- 4.25 MIFA理事会
- 5. 9 守谷市青少年海外派遣事業派遣団員選考の支援
- 5.11 第29回外国人のためのボランティア日本語講座
- 5.16 MIFA総会
- 5.18 竜ヶ崎市姉妹都市交流委員会来市
- 5.29 守谷市青少年海外派遣事業事前研修会協力
- 6. 7 スペイン語講座開講
- 6.12・13 JICA研修員ホームステイ
- 6.13 青年交流委員会がアヤマ祭りに参加
- 6.25 MIFAニュースレターNO.39発行
- 7.11 MIFAサロン「春巻きから見えるベトナム」
- 7.14 第29回外国人のためのボランティア日本語講座修了式
- 8.21 守谷市青少年海外派遣事業派遣団員及び引率者帰国報告会
- 8.21・22 青年交流委員会が北守谷団地夏祭りに参加
- 9. 3 英会話初級・中級コース開講
- 9. 4 中国語初級コース開講
- 9. 8 ボランティア日本語講師養成講座開講
- 9.26 MIFAフェスタ「われら地球人」
- 9.29 第30回外国人のためのボランティア日本語講座

# 秋、恒例のMIFAフェスタ

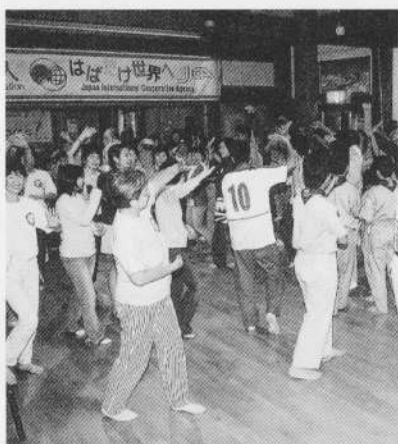
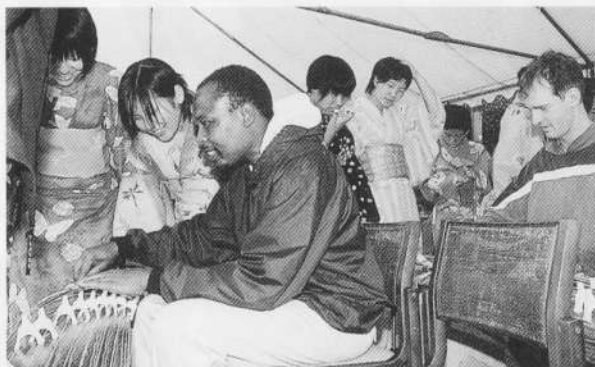
JICA研修員と在住外国人を招待して行われたMIFAフェスタ。

今年はいにくの雨模様でしたが、JICA研修員65人を含め、250人がログハウスに集いました。

朝から断続的に雨が降っていましたが、JICAが到着したときは止んでいて、阿波踊りのウェルカムパレードは無事行われましたが、その後はまた雨に降られました。今年で7回を数えるMIFAフェスタですが、雨に降られたのは初めてのことです。

それでもテントの中では、日本の遊びや折り紙、琴の体験などが行われ、また、室内でもお茶席やちぎり絵、書道の体験コーナーがあり、JICA研修員も楽しんでいました。

午後からは大ホールに舞台を移し、アルファベット順による国旗の入場があり、南中ソーラン、日本舞踊、剣道・居合、ひょっとこなどの日本文化の紹介やJICAアワーとして国名あてクイズ、国旗の持つ意味や自国文化を紹介する歌やダンスなどが披露され、異文化交流の一日を楽しく過ごしました。



皆さん、こんにちは。  
私の名前はガマゲです。スリランカから来ました。研修コースは獣医技術研究です。

6月にホームステイで守谷市に来たことがあります。

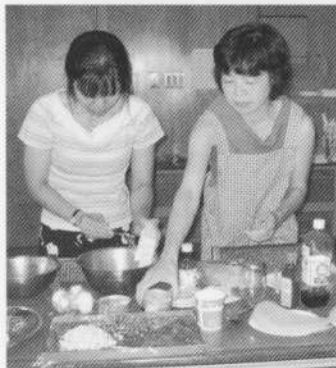
皆さん。今日はどうもありがとうございました。一度にこんなにたくさんの

の日本文化を体験でき、とても楽しい時間を過ごすことができました。子どもたちもとてもかわいかったです。

私は来月スリランカに帰りますが、今日の写真や出来事を家族や友達に話したいと思います。

今日はどうもありがとうございました。

## MIFAサロン



# 春巻きから見えるベトナム

ベトナム出身のチャオさん（在日5年）から、日本でも人気のベトナムの春巻き（生、揚げの二種類）の作り方を教えていただき、ベトナムの楽しい話を伺いました。参加者は64人（うち外国の方は6カ国、23人）でした。和気あいあいのうちに春巻き作りに挑戦した後、試食し、その後の歓談と、交流と情報交換の

場となりました。春巻きは形をつくるのが難しく、笑いや奇声が起こり、英語や中国語が飛び交うなど、インターナショナルな催しになりました。

最後にチャオさんが、ベトナムの「仲良くなる」という歌を歌ってくださり、澄んだ声がとても心に残りました。

## JICA研修員をお招きしてのホームステイ

私たち家族は、市の広報に載った「ホームステイ受け入れ家族募集」に応募し、6月に学びの里で「Gamage（ガーミー）」に会った。事前に知らされていたのは、「スリランカ出身、37歳、男性、子ども2人、豚肉と牛肉が苦手」というだけ。とても楽しみにしていた。ガーミーは小柄な、とても穏やかな笑顔の獣医さんだった。ガーミーとまず仲良くなったのは我家の2人の子供たちである。ガーミーの手を取り、ひざに乗り、我家にきてからは家中を案内してまわり、ままごと遊びのパパ役までさせた。そして、食卓では家族全員でガーミーの出身国であるスリランカの話をお聞かせもらう。気候や食べ物、政府のこと、風習、宗教、ガーミーの家族や家のこと、仕事のこと、本当に話は尽きない。ガーミーも熱心に日本の家のつくりや、町並み、仕事や、日本人の理解できない行動などについて質問してくる。特に、男同士、仕事や会社組織のあり方で盛り上がったのが、夫とは夜遅くまで話をしていたようだ。



たった1泊2日のホームステイ受け入れということ、本当に時間はあっという間に過ぎてしまった。ガーミーに喜ん

でもらおうと、茨城県自然博物館へ行ったりしたが、それよりもいっしょに話をしてゆっくり紅茶を飲んでいたかたあとで思ったほど、本当に一緒に話をしていた時間が楽しかった。

ガーミーをJICA(国際協力事業団)の研修所まで送って行って、お別れをするとき、本当に寂しくなりました。最近の私たちの生活でこんなにも他人と触れ合うことって無かったと思う。たった2日間の間なのに、私たちは家族のような気持ちになっていたのだ。受け入れから1カ月が経とうとしている今でも、子どもたちはガーミーあての手紙を書き、似顔絵を描いている。家族でガーミーのことを気にしている。そしてまたいつか、週末にガーミーを我家に招待しようとして話合っている。

言葉なんかではない（我家は英語は得意ではない）、魂と魂で会話し、心のふれあいがもてたことに感謝している。そしてこれからも、せっかく知り合えたガーミーとの素敵な関係をできるだけ大切に育てていきたいと考えている。

こんな素敵な出会いを与えてくれた、守谷市国際交流協会の方に心から感謝している。

2004年7月14日 早川京子



## 守谷市アヤメ祭り・北守谷団地夏祭りに 青年交流委員会が出店

私たち青年交流委員会は、先日行われたアヤメ祭りに、スリランカやラオスの子どもたちへの就学援助を目的とする活動の一環として出店しました。これは毎年行っている活動の一つです。

当日の早朝、私たちは土砂降りの中、四季の里公園に集まりました。あまりの雨に、出店をやめようかと思いましたが、少しでもお客さんが来ればと思い準備をすることにしました。多くの方々からの寄付品を景



8月21日、北守谷団地夏祭り会場

品として、今年も昨年と同様グッズをしました。初めは雨のため、あまり訪れる人はいませんでしたが、雨が弱くなると

人も増え、特に小学生がたくさん来てくれて、とても活気あふれる場となりました。お昼を過

ぎると太陽も出てきて客足も伸び、お客さんとの会話を楽しみながら活動することができました。

限られた時間、人数での準備で、とても大変でしたが、お客さんとの会話や、メンバーとの準備は充実したもので、非常に素晴らしい時間を過ごすことができました。今年は雨だったにもかかわらず、昨年以上の寄付金が集まり大成功でした。また、私たちの活動の写真を熱心に見てくださった方やボランティアの内容を質問してくださる方もたくさんいて、私たちのやっていることを多くの人に知ってもらえたという点でも大成功だったといえます。

多くの人の協力のおかげで成功することができました。この場をお借りしてお礼申し上げます。



6月13日、守谷アヤメ祭り会場

## カンボジアの一週間

青年交流委員会 鈴木良介



3月28日から4月4日の一週間、JICA筑波と茨城県国際交流協会が企画したカンボジアスタディーツアーに参加しました。

到着の翌日はまず、JICA現地事務所を訪問し、カンボジアの歴史や現状、日本

の活動を聞きました。午後からはプノンペン郊外へ行き、農村給水施設（井戸）を視察しました。人体に害のない地下水を汲み上げるには50メートルも掘らなくてはならないので、現地の人だけでは不可能なのです。その農村で会った子どもたちは、プノンペンにいた子どもとは違い、お金を求めるわけではなく、満面の笑みで近付いてきます。そんな子どもたちを見ていると、青年海外協力隊員として教育ボランティアに参加することも進路の一つ、と思うようになりました。

2日目は灌漑工事の現場を見ました。ショベルカーで固い土を掘り、その後現地の人を手作業で水路を整えま

す。機械だけで作業を進めたほうが効率的なのですが、その後の保守を考えれば、現地の人が技術を知っていたほうが良いからです。また、その技術を他に広められるということも考えてのことだそうです。

3日目は学校関係の話の聞いたり、タケオという地方の住民の家へ行き、その暮らしを見たり、日本大使館を表敬訪問しました。

4日目は孤児院を訪問、上手に日本語を話すソチアという子どもに会いました。公務員の月給が20ドルというこの国で、アンコールワットなどのバスガイドになれば一日20ドルがもらえるそうです。

5日目は一番きたかった幼稚園の訪問でした。文字や数を教えていますが紙や鉛筆がなく、物を作ったり楽器に触れさせたくてもお金がなくてできないと言っていました。子どもたちは大きい声で楽しそうに学んでおり、この子たちが大きくなって国を動かすような年齢になれば、カンボジアも今よりずっと発展しているだろうと感じました。

今回のツアーで学んだことはたくさんあります。点数をつけるとしたら100点だと思います。この一週間は今まで生きてきたどの一週間よりも充実し、人生観を変えてしまうほどの価値がありました。今後もスタディーツアーや国際交流の機会があれば、積極的に参加したいと思います。